

## 諮問事項 2 就学前教育に取り組むための公民の役割分担について

## 1 現状と課題等

- 子どもの人口が減少する中での保育需要は増加しており、今後も、潜在的な保育需要や就学前教育等のニーズに柔軟に対応し続ける必要があります。
- 新制度の導入により、多様な施設や主体において就学前教育が展開されることから、情報の共有や連携を図る体制を市域全体で構築する必要があります。
- 子どもの貧困や障がい者の地域共生等については、セーフティネットの構築やインクルーシブ教育・保育の展開が喫緊の課題となっています。
- 就学前教育を担う人材が不足していることや世代交代が進んでいることから、人材の確保や育成も喫緊の課題となっています。

## 2 5月15日会議の主なご意見

- 民間でも、特別支援教育を行っているが、費用が大変かかる。また、民間は民間で、経営的にも厳しい中で特色も出さないといけないので、民間で対応できない障がい児の受入れ等費用がかかることについては、最終のセーフティネットということで公立に担ってもらいたい。
- 公立幼稚園は地域に開かれた教育に特徴があり、幼・小の円滑な接続の背景や地域の福祉の方とも密に交流し、様々な活動を行うなかで、思いやりや人を敬う気持ちを培っている。
- 公立保育所は、乳児の心の安定を図ることを大事にしている。その取組として家庭と離れた0歳児にとって人と人との愛着関係が一番大事と考え、公立3保育所で「育児担当保育」を実施している。

## 3 6月18日会議の主なご意見

- 公立幼稚園では親子登園、保育所では園庭開放をしていて、乳幼児の頃から、親子連れで参加でき、園児たちの様子を見ながら、地域の子育て支援に関する様々な情報を得る場や交流できる場になっている。
- 子どもを公立幼稚園に通わせた保護者にとっては、PTA活動が盛んであり、参加することによって親同士のつながりや、集団の中での子どもたちの様子を見ることで視野が広がり、親育ちの場になっている。
- 親育ちの場の支援としては、公立幼稚園や保育所だけではなく、公民館、保健センター、つどいの広場、NPOなど、様々な仕組みが阪南市にはあるので、そういったところと連携を取り、その核となるのが公立の役割である。

- 校区の福祉委員会では、公立幼稚園で昔遊びを教え、交流をもっている。そういう場作りができることが、公立の良い役割なのではないかと思う。
- 海側にある園所と山側にある園所で自然との触れ合いが異なってくると思うので、例えば、海側の園所と山側の園所でお互い招待し交流するとかできればいいと思う。
- お祭り等の地域と密着した取組がたくさんあるので、そのような地域に根付いた活動に参加できるというのは子どもにとっていいと思い、公立幼稚園に通わせている。
- 公立幼稚園の保護者の方の話を聞くと、サークル活動を通してできたつながりがあることで、子どもたちが園を卒園してから地域でのまちづくりや子育て支援に関わる保護者が増えて、それが子育てや親育ちにつながっていくのだと思う。
- 公立幼稚園では、障がいを抱えた子どもへの特別支援教育ということに関しては充実した取組を行っている。また、食物アレルギー対応についても、命に関わることなので、一人一人の状況を把握し、常に保護者の方と連携を取りながら食材の確認を丁寧に行っている。
- 公立保育所では、自園で給食を作っており、食物アレルギー対応については、保護者の方の考えを聞いたうえで、子どもの成長に必要な栄養素を考えながら行っている。食物アレルギーの有無に関わらず子どもたちが楽しく給食を食べることができるように努めるのが公立の役割だと思う。

#### 4 答申の方向性、答申に盛り込む事項など

- 子育てに様々な困難を抱える家庭やアレルギー、障がい、外国にルーツを持つなど特別な支援が必要となる子どもの受け皿になるなど民間では費用面等で対応できない部分は、公立が最終のセーフティネットとしての役割を担う。
- 保護者の様々な活動を通じ、地域の子育て支援に関する情報共有の場や保護者同士のつながりを作る場として、公立施設とりわけ公立幼稚園が担ってきた子育てや親育ちの場としての役割を今後も継承する。
- 公立は地域の核として、民間の認定こども園や幼稚園、NPOなどとの連携を図るなどコーディネーター役となることが望ましい。
- 民間の多様な施設や主体において、特色ある就学前教育等を展開してもらうことにより、保護者の選択肢が広がることが望ましい。
- ラウンドテーブルの設置など公民がより一層連携を行うことにより、民での取組を公が支援する形で、就学前教育等の底上げを図る。